

かわらばん

ホームページ



令和2年6月

第252号

はびきの医療センター、これまで以上に頑張ります！

事務局長 水守 勝裕

世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス。当センターでも感染防止のために、入院患者さんへの面会の禁止や来院時のマスク着用・手指消毒、病棟出入口の閉鎖など、皆さんにたくさんのご協力をいただくとともに、ご不便をおかけしています。

一時に比べれば、新規感染者数は大幅に減少し、外出や営業の自粛は緩和されていますが、いずれ「第二波」が来るとも言われています。自分や大切な人たちをコロナから守るためには、一人ひとりの心がけと行動変容が重要です。気を緩めず、できることに取り組みましょう。

私たちも、地域の皆さんに信頼される医療機関であるために、今後とも最大限の努力をしております。



さて、話は変わって・・・

当センターでは、2023年春のオープンをめざして新しい病棟の整備に着手し、今月下旬から、新病院棟の建設予定地となる既存建物（研究棟等）の解体工事が始まります。これに伴い、敷地内の一部が通行止めとなり、迂回をしていただく必要がありますので、院内各所に掲示している案内図をご確認ください。



工事に際しては細心の注意を払い、ご迷惑をかけることがないように取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、工事の進捗状況は、当センター公認のフェイスブックやホームページでも随時お知らせします。他にもいろんな情報を発信していきますので、ぜひフォロー、アクセスしてみてください！

川崎病について

小児科 医長 重川 周

川崎病は、心臓の血管(冠動脈)を含む全身の血管に炎症を起こす発熱性の疾患です。

川崎病の症状は多彩で、①発熱、②両側眼球結膜充血(白目が赤い)、③口唇・



口腔所見(舌がイチゴのようにぶつぶつ、くちびるが赤い)、④発疹(BCG接種部位の発赤を含む)、⑤四肢末端の変化(手足の指が腫れる、手の平や足の裏が赤くなる)、⑥頸部リ
〈裏面へ続く〉



〈表面からの続き〉

リンパ節腫脹(くびのリンパ節が腫れて、触ると痛い)、と6つの主要症状があり、そのうち5つを満たすと川崎病と診断されます。主要症状を5つ満たさなくても、超音波検査で心臓の血管に炎症があることがわかれば、川崎病と診断して治療を開始することがあります。川崎病自体は自然に改善する病気ですが、無治療の患者の25-30%に、心臓の血管のこぶ(冠動脈瘤)ができてしまうことがわかっています。こぶは突然死の原因になるため、川崎病と診断したら早期に治療を開始し、こぶをつくらないようにする必要があります。

治療は、入院して免疫グロブリンというヒトの抗体を集めたものを点滴で投与します。約80%で症状が改善しますが、効果が不十分でステロイドや免疫抑制剤などの追加の治療を必要とすることもあります。退院後の数年間は心臓超音波検査などで経過をフォローします。

治療の早期開始が重要であり、①～⑥の主要症状に多くあてはまるときは早めに医療機関に相談をお願いします。



2A病棟(外科系病棟)よりこんにちは

2A病棟看護師長 難波 美華

2A病棟は呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、産婦人科で主に「手術」を受けられる患者さんが入院して治療をサポートする病棟です。手術は月曜日から金曜日まで毎日行われています。中でも入院患者さんの約60%を「呼吸器がん」の患者さんが占めています。今回は、専門性の高い呼吸器関連手術で術後の経過の一例について紹介します。

術直後は、異常の早期発見のため、きめ細やかに観察を行い、手術に伴う痛みのコントロールに集中してケアにあたります。状態が安定していれば、手術翌日から元の行動レベルに戻るよう看護師と一緒に歩行して身体に負担がないかを確認しながら離床していきます。医療技術も日々進歩し、最近では術後のドレーン(体内へ挿入される管)管理の期間も短くなっています。さあ、ドレーンが抜けたら次はリハビリ科とも情報共有しながら安全な日常動作獲得に向けたリハビリに進みます。リハビリが終了し、医師の許可が出れば退院になります。

このような流れでおおよそ2～3週間の入院生活になります。入院中には、安全なケアを提供するために、患者さんの重症度に合わせた病室調整で病室を変わって頂くこともあり患者さんに協力して頂いております。スタッフ一同、日毎に回復に向かわれる患者さんと共に喜びを感じ看護を行っています。

2A病棟は数年前から外科外来との連携を図り、患者・家族さんが手術への不安や緊張が少しでも和らぎ、手術を前向きにとらえていただけるよう入院前から外来で手術治療スケジュールを使いながらオリエンテーションを行っています。また、必要な情報共有を行い、患者様の状況に合わせて入院中のサポートができるよう連携しています。

今年度は、患者支援センター内に「入退院支援センター」が開設されました。これを機会に手術を受ける患者さんにとってスムーズな入退院を進めることで退院後も安心して地域で暮らしていただけるよう私たちは日々勉強を重ね、患者さんにとって安全で安心できる質の高い看護を提供できるよう頑張っていきます。

